

山が嫌いで海に憧れた。広い海の傍で暮らせば自由にやれると思っていた。そうでもないと感じ、目的もなく港をふらついていたとき、おれは我知らず境界線を求めていた。

（「かがやき」より）

かがやき

はせひらひろき

馳平啓樹

水窓出版

かがやける
労働の日々

Hasehira Hiroki
Kagayaki

